

第3回愛知県海岸保全基本計画検討委員会技術部会 議事要旨

日 時：令和6年1月18日（木）

15時00分～17時00分

場 所：KKRホテル名古屋（WEB併用）

1. 次第

1. 開会
2. 愛知県海岸保全基本計画検討委員会技術部会
（議題）
 - ・全体フローとスケジュール（案）
 - ・第2回技術部会の意見と対応
 - ・気候変動を踏まえた計画外力の設定
 - ・代表エリアにおける現状施設の評価
 - ・今後の検討事項（案）
3. 閉会

2. 配布資料

- ・第3回愛知県海岸保全基本計画検討委員会技術部会 技術部会資料
- ・第3回愛知県海岸保全基本計画検討委員会技術部会 技術部会参考資料

3. 質疑応答

■第2回技術部会の意見と対応

【委員】

参考資料 P5 の台風通過個数のバイアス補正について、過去実験と気象庁ベストトラックでまだ少しずれているのが気になる。

【事務局】

伊勢湾台風、第2室戸台風、昭和28年13号台風に引っ張られていることと、低頻度の台風のサンプル数が両者で異なっているため、ずれが生じていると考察している。

【委員】

風速変換係数の違いは外力を設定するときの計算値の不確実性だと思うが、余裕高に含めていいものなのか？余裕高の考え方を整理したほうがいい。

【事務局】

次回以降、余裕高の考え方を整理して必要堤防高を算出するようにする。

【委員】

P8の気候変動後の外力検討の結果について、将来的な台風のメカニズム変化が不確実なため、想定台風モデルを使うという判断が妥当なのか？判断が伝わるような表現をした方がいい。

【事務局】

表現方法を工夫して、判断の意図が伝わるようにする。

【委員】

d4PDFは60km間隔であり、風場や気圧場を十分に表現できないため、想定台風モデルのほうが良いと思われる。

■気候変動を踏まえた計画外力の設定

【委員】

師崎港では約 1m、一色漁港では約 50cm もの差が生じている原因は何か？また、現状評価については地形の変化のみで行っているのか？他に考慮している点がないのであれば、【案 1】に賛成である。

【事務局】

差が生じている原因は、伊勢湾台風時の痕跡の観測密度が高くないことが考えられる。また、現状評価について地形条件以外には考慮していない。

【委員】

P28 の波浪推算地点 A03 における波浪について、過去実験、2℃上昇、4℃上昇のいずれにおいても確率波高が 30 年から 1000 年確率まで頭打ちとなっていて、同じ高さになっているところが気になる。

【事務局】

浅海域であるため、外力が頭打ちになっていると推測している。今後は沖の St.06 で検討していくことを考えている。

【委員】

計画高潮位について【案 1】は合理的であるが、師崎港の現行計画が 2.5m で決まった経緯が気になる。実測の潮位偏差があったのかなど設定経緯を調べた方が良い。

【事務局】

設定経緯は調べるようにする。高潮浸水想定の見ても、今回の検討と同じような傾向になっていて、余程正しいだろうと判断はしている。

【委員】

高潮浸水想定で伊勢湾台風よりも気圧が低い室戸台風級でも上がらないことを確認しているということであれば、大きな根拠になると思う。

【委員】

P28 の赤羽根の推算地点 (A03) で水深が影響しているというのは、碎波しているので、波として成立していないという理解でいいのか？

【事務局】

その通りだと思う。そのため、推算地点を本来あるべき沖の地点に変更することを考えている。

【委員】

最終的に【案 1】、【案 2】はこの段階で決めるのか？

【事務局】

今後は【案 1】で進めることを考えている。この会議に先立って、他の管理者にも同様の説明を行っており、特に意見なく了解をもらっている。

【委員】

技術部会においても【案 1】で進めることで問題ない。

■代表エリアにおける現状施設の評価

【委員】

レベル湛水法だと浸水エリアが内陸にでてくることは理解した。ただし、結果的に内陸にのみ浸水している結果を出されると、ここより海側でも浸水しないと理解されると思う。最終的に浸水する範囲だけでものをみるので、本当は被害がもっと発生すると思われる。浸水範囲や被害額といった具体的な数字が出ているため、数字が独り歩きしてしまっているのでは、気を付けないといけない部分と思う。

【事務局】

資料のまとめ方を考える。

【委員】

赤羽根エリアについて、現状の津波による浸水面積はゼロなのか？水門は閉まっている前提か？

【事務局】

水門は機能して、堤防や水門から溢れないことが考え方の元となっている。

【委員】

必要天端高は、1つ1つのステップの中で決めるべきものを決めていって、最終的に行政的な判断をするのがいいと思う。

【事務局】

今回は代表エリアだけが、次回以降は全線にわたって同じような作業を確認しながらやっていきたいと思う。

【委員】

施設整備を行う際、途中段階の高さまで上げて、その後、将来目標まで高さを上げるような進め方をしていくものなのか？

【事務局】

施設の耐用年数を考慮しながら整備目標を定めていくものと考えている。ただ、場所によっては、余裕高の関係もあるが嵩上げする高さが小さく、一度に上げた方がいいところもあると思う。

【委員】

事務局の説明のとおりと思う。

追加するとすれば、離岸堤みたいにブロックを積み増しできる施設は海面が上昇した後に対応すればいいし、水門のように基礎をしっかり作る施設は整備当初から 2100 年時点の外力で整備した方がライフサイクルコストも安くなる施設もある。

以上